

ある農夫が、一頭のろばを飼っていました。ろばは長い間、まじめに働いてきましたが、年をとり、日に日に仕事ができなくなっていました。

主人は、ろばを飼いつづけるのがいやになり、とうとう命をうばおうと考え始めました。それに気づいたろばは、こっそり逃げ出し、大きな町へ向かいました。

「①町へ行けば、音楽家になれるかもしれない。」と考えたのです。

しばらく歩くと、道ばたに犬が横になっていました。くたびれたように、はあはあと息をしています。

「どうして、そんなに息を切らしているんだい。」

ろばがたずねると、犬は答えました。

「ぼくは年をとって弱くなり、もう狩り*の役に立てなくなつたんだ。それで、主人がぼくを殺そうとしたので逃げてきた。でも、これからどうやって食べていけばいいのだろう。」

「それなら、ぼくといっしょに町へ行こう。ぼくは音楽家になるつもりなんだ。きみもやってみたらどうだい。」

犬は喜んで、ろばと歩き始めました。

ことば * 狩り：野生の動物をつかまえること。

やがて、道のまん中に、ひどく悲しそうな顔をした猫がすわっているのを見つけた。

「どうしたんだい。ずいぶん元気がないね。」

ろばが声をかけると、猫は言いました。

「命があぶないのに、元気でなんかいられないわ。わたしも年をとって、ねずみを追い回すより、火のそばでのんびりしていたくなったの。すると、うちのおかみさん*が、わたしを水にしずめようとしたのよ。なんとか逃げてきたけれど、これから何を食べて生きていけばいいのかしら。」

「それなら、ぼくたちと町へ行こう。きみは②夜に歌うのがじょうずだから、音楽家としてうまくやっ

けるかもしれないよ。」

猫はその考えを気に入る、③仲間に加わりました。

ことば ** おかみさん：ここでは、猫を飼っている家の女の人。

なまえ
名前：

と
解く

と
いいち
問一

―①から、ろばは町へ行って何をしようと考えていましたか。一つ選びましょう。
ア 新しい主人をさがして、畑で働く。
イ 犬といっしょに、狩りに出かける。
ウ 音楽家になって、くらしていく。
エ 年をとった動物を、主人の家へ送る。

こたえ

と
いいに
問二

―②で、ろばは猫が何をするのがじょうずだと言っていますか。

と
いさん
問三

―③で、猫が仲間に加わる前に心配していたのは、これからのどのようなことですか。

【これまでのお話】
年をとったろばは主人のもとを逃げ出し、町で音楽家
になろうと考えました。途中で犬と猫に出会い、いつ
しよに旅をすることになりました。

【本文】

三びきが農家の庭のそばを通ると、おんどり*が門の
上にとまり、ありったけの声で鳴いていました。

「すばらしい声だね。いったい、どうしたんだい。」
ろばがたずねると、おんどりは答えました。

「ぼくはさつき、せんたく日和のいい天気になるぞと
知らせていたんだ。それなのに、おかみさんも料理人
も喜んでくれない。それどころか、あしたぼくの首を
切つて、日曜日に来るお客さんのためにスープにする
つもりなんだ。」

「それはたいへんだ。ぼくたちといっしょに来なよ。
ここに残るより、ずっといい。うまく声を合わせた
ら、みんなで演奏会ができるかもしれないよ。」

「ぜひ、そうさせてもらうよ。」
こうして四ひきは、楽しく旅をつづけました。

ことば * おんどり：おすのにわとり。

けれども、その日のうちに町へ着くことはできせんでした。夜になると、四ひきは森に入り、そこでねむることにしました。

ろぼと犬は、大きな木の下に横になりました。猫は枝に登りました。おんどりは、高いところほど安全だと思い、①木のいちばん上まで飛んでいきました。

おんどりは、いつものように、ねむる前にあたりを見回しました。すると、遠くで何かが明るく光っているのを見つけました。

「明かりが見えるよ。そんなに遠くないところに、家があるにちがいない。」

それを聞いて、ろぼは言いました。

「それなら、②ねる場所を変えたほうがよさそうだ。

ここは、あまりいいねぐら**とはいえないからね。」

犬も言いました。

「それに、骨の一本か二本、肉のひとかけらでも食べられたら、ありがたいな。」

四ひきは、おんどりが見つけた明かりを目ざして歩きました。近づくにつれて、明かりは大きく、明るくなりました。

とうとう、③一軒の家の前に着きました。そこは、泥棒たちが住んでいる家でした。

ことば ** ねぐら：ねたり、休んだりする場所。

なまえ
名前：

と
解く

と
いいち
問一

―①で、おんどりが木のいちばん上まで飛んでいったのはなぜですか。一つ選びましょう。

ア いちばん高いところなら、食べ物があると思ったから。

イ 高いところほど、安全だと思ったから。

ウ 木の下にいる犬に、追い出されたから。

エ 家の中にいる泥棒を、おどかさそうと思ったから。

こたえ

と
いいに
問二

―②で、ろばがねる場所を変えたほうがよいと思ったのはなぜですか。

と
いさん
問三

―③の家には、だれが住んでいましたか。

【これまでのお話】

町^{まち}へ向^むかうろば、犬^{いぬ}、猫^{ねこ}、おんどりは、森^{もり}で夜^{よる}を過^すごそうとしていました。おんどりが明^あかりを見^みつけ、四^{よん}ひきは一軒^{いっけん}の家^{いえ}までやってきました。そこは泥棒^{どろぼう}たちの家^{いえ}でした。

【本文】

仲間^{なかま}の中^{なか}でいちばん背^せの高^{たか}いろばが、窓^{まど}に近^{ちか}づき、中^{なか}をのぞきました。

「どうだい。何^{なに}が見^みえる。」

おんどりがたずねました。

「何^{なに}が見^みえるかだって。いろいろなごちそうをならべた食卓^{しょくたく}を、泥棒^{どろぼう}たちが囲^{かこ}んで、楽^{たの}しそうに食^たべているよ。」

「ぼくたちが泊^とまるには、すばらしい家^{いえ}だね。」

「そうだね。中^{なか}に入れ^{はい}さえすれば。」

四^{よん}ひきは、どうしたら泥棒^{どろぼう}たちを外^{そと}へ追^おい出^だせる

か、相談^{そうだん}しました。そして、とうとう一^{ひと}つの方法^{ほうほう}を思^{おも}いっきました。

ろばは後^{うし}ろ足^{あし}で立^たち、前足^{まえあし}を窓^{まど}にかけました。①犬^{いぬ}がろばの背^せ中^{なか}に乘^のり、猫^{ねこ}が犬^{いぬ}の肩^{かた}に登^{のぼ}りました。そして、おんどりが飛^とび上^あがり、猫^{ねこ}の頭^{あたま}にとまりました。

準備ができると、合図に合わせて、四ひきの音楽が始まりました。

ろばはいななき、犬はほえ、猫はにやあと鳴き、おんどりは声を張り上げました。

そのうえ四ひきは、いっせいに窓を破つて、部屋へ転がりこみました。ガラスの割れる音と動物たちの声で、ものすごいさわぎです。

初めの音楽だけでもおびえていた泥棒たちは、

② 恐ろしいおぼけが飛びこんできたと、すっかり思いこみました。そして、一目散*に逃げ出しました。

泥棒たちがいなくなると、四ひきは食卓につき、残されたごちそうを夢中で食べました。まるで、これを逃したら一か月も食べられないとでもいうような食べっぷりでした。

おなかがいっぱいになると、明かりを消し、それぞれ気に入ったねる場所をさがしました。

ろばは、庭に積んであるわらの上に横になりました。犬は戸のうしろの敷物の上に体をのぼし、猫は暖炉*の温かい灰の前で丸くなりました。おんどりは、家の高いところにあるはり***にとまりました。

四ひきは旅でくたびれていたので、③まもなく、ぐっすりねまりました。

- ことば
- * 一目散：わき目もふらず、一生けんめいに走るようす。
 - ** 暖炉：部屋を暖めるために、火をたくところ。
 - *** はり：建物を支えるため、横にわたした太い木など。

なまえ
名前：

と
解く

と
いいち
問一

①に続いて、四ひきはどのような順に重なりましたか。
下から順に、空いているところへ動物の名前を書きましょう。

ろば



うえ

おんどり

と
いいに
問二

②について、本文の内容に合うものを一つ選びましょう。
ア 本当におぼけが現れ、動物たちを追い出した。
イ 動物たちは、家の外で静かに待っていた。
ウ 泥棒たちは、動物たちを音楽家だと知って招いた。
エ 四ひきの声や大きな物音を聞き、泥棒たちはおぼけだと思つた。

こたえ

と
いさん
問三

③で、四ひきがまもなくぐっすりねむったのはなぜですか。

--	--	--	--

【これまでのお話】

ろば、犬、猫、おんどりは、大きな声と物音で泥棒たちを追い出しました。ごちそうを食べたあと、ろばは庭、犬は戸のうしろ、猫は暖炉の前、おんどりは家の高いところでねむりました。

【本文】

真夜中ごろ、泥棒たちは遠くから家を見ました。明かりが消え、あたりは静まり返っています。

「おれたちは、あわてて逃げすぎたのかもしれない。」

そこで、仲間の中でも勇気のある一人が、家のようすを見に行くことになりました。

家の中は静かでした。泥棒は台所に入り、ろうそくに火をつけようと、手さぐりでマツチを見つけました。

そのとき、①きらきら光る猫の目を、まだ火の残っている炭だと思いこみました。そして、そこへマツチを近づけたのです。

猫には、そんなことをされるわけが分かりません。

泥棒の顔に飛びかかり、ふうつと怒って、ひっかきました。

泥棒は、すっかりおびえて、うらの戸へ逃げました。すると、今度は犬が飛び起き、足にかみつきました。

庭を横切ろうとすると、ろばにけられました。そのさわぎで目をさましたおんどりも、ありったけの声で鳴きました。

泥棒は、大急ぎで仲間のところへ逃げ帰りました。

そして、かしら*に話しました。

「家の中には、恐ろしい魔女がいる。おれにふうと息をふきかけ、長くて骨ばった指で顔をひっかいたんだ。」

②戸のうしろには、ナイフを持った男がかくれていて、おれの足をさした。

庭には黒い怪物がいて、こん棒でなぐってきた。

家の高いところには悪魔がいて、『その悪いやつを、こっちへ放り上げろ!』と、どなっていたんだ。」

それからというものの、泥棒たちは、二度とその家へもどろうともしませんでした。

一方、四ひきの音楽隊は、③その家がすっかり気に入って、そこに住むことにしました。きっと、今でもそこですくすくしていることでしょう。

ことば * かしら：仲間をまとめる人。

なまえ
名前：

と
解く

と
いいち
問一

①で、泥棒が猫の目にマッチを近づけたのはなぜですか。
一つ選びましょう。
ア 猫に食べ物の場所を教えようとしたから。
イ 炭だと思ったものから、火をつけようとしたから。
ウ 猫の目がよく見えるように、照らそうとしたから。
エ 仲間に、自分のいる場所を知らせようとしたから。

こたえ

と
いいち
問二

②で、泥棒は「男が足をさした」と話しています。実際には、何が起こりましたか。

と
いさん
問三

③で、四ひきはどんな家に住むことにしましたか。

問3

解答例：これから何を食べて生きていけばよいかということ。

本文のどこを見るか

猫のせりふの最後「これから何を食べて生きていけばいいのかしら」。

考え方

逃げ出すことはできても、その後の暮らし方が分からず心配しています。

採点ポイント

「食べ物をどう手に入れるか」「どうやって生活していくか」も正答。「主人に殺されること」だけなら、逃げた後の生活への心配を確かめます。

問2

解答例：夜に歌うこと。

本文のどこを見るか

傍線②「夜に歌うのがじょうず」。

考え方

ろばは猫の得意なことに目を向け、音楽家になろうと誘っています。

採点ポイント

「歌うこと」「歌」も正答。猫の長所を読み取れていればよく、本文と同じ表記で書く指定はありません。「ねずみを追うこと」は以前の仕事との取り違えです。

問1

正解：ウ

本文のどこを見るか

傍線①「町へ行けば、音楽家になれるかもしれない」。

考え方

ろばは、町で音楽家としてくらすことを考えています。旅の目的を確かめます。

誤答の理由

ア：新しい主人を探すとは書かれていません。イ：犬は狩りの役に立てなくなって逃げています。エ：動物を主人の家へ送り返そうとしていません。

問3

正解：泥棒たち

本文のどこを見るか

最後の「そこは、泥棒たちが住んでいる家でした」。

考え方

到着した家に住んでいた者確かめます。次の展開につながる事実です。

採点ポイント

「泥棒」「泥棒の仲間たち」も正答。ろばたちは、まだこの家に住んでいません。

問2

解答例：今いる場所が、あまりよいねぐらではなかったから。

本文のどこを見るか

傍線②に続く「ここは、あまりいいねぐらとはいえないからね」。

考え方

明かりから家があると分かり、もっとよい寝場所を期待しています。ろばと犬の発言を区別します。

採点ポイント

「森の寝場所がよくなかったから」「家なら今いる森よりよい場所で眠れそうだから」も正答。「肉を食べたかったから」だけなら、犬の発言を答えていないか確認します。

問1

正解：イ

本文のどこを見るか

傍線①の直前「高いところほど安全だと思い」。

考え方

木に登ったときの考えを読み取ります。明かりを見つけたのは、登った後です。

誤答の理由

ア：食べ物を探すためではありません。ウ：犬に追い出されたとは書かれていません。エ：この時点では泥棒の家をまだ見つけていません。

問3

解答例：旅でくたびれていたから。

本文のどこを見るか

傍線③の直前「四ひきは旅でくたびれていたなので」。

考え方

すぐに眠った理由として、本文が直接述べている内容を答えます。

採点ポイント

「旅をして疲れていたから」「長い道のりを歩いて疲れたから」も正答。「おなかいっぱい食べたから」だけなら、その出来事と、本文が述べる理由を区別して読み返します。

問2

正解：エ

本文のどこを見るか

四ひきが声を上げ、窓を破って転がりこんだ場面と、傍線②。

考え方

実際には動物たちが入ってきましたが、泥棒たちはおばけだと思いました。出来事と思い込みを区別します。

誤答の理由

ア：本物のおばけではありません。イ：四ひきは声を上げ、家の中へ入りました。ウ：泥棒は招いたのではなく、おびえて逃げました。

問1

正解：犬 → 猫

本文のどこを見るか

傍線①と、その後の「猫が犬の肩に登りました」。

考え方

下から、ろば・犬・猫・おんどりの順です。だれの上に乗ったかを整理します。

採点ポイント

二つとも正しい位置に書ければ正答です。逆の場合は、だれの背中・肩に乗ったかを本文で確かめます。

問3

解答例：泥棒たちが住んでいた家。

本文のどこを見るか

傍線③の「その家」と、直前の泥棒たちがもどらなくなった家の話。

考え方

「その家」が指すものを確かめます。四ひきは町で音楽家になったのではなく、この家に住みつきました。

採点ポイント

「泥棒の家」「泥棒たちを追い出した家」も正答。「その家」だけなら、どんな家を指すかを確かめます。

問2

解答例：犬が飛び起きて、泥棒の足にかみついた。

本文のどこを見るか

泥棒がうらの戸へ逃げた場面の「犬が飛び起き、足にかみつきました」。

考え方

泥棒の説明と実際の出来事に対応させます。ナイフを持った男は、泥棒の勘違いです。

採点ポイント

犬が泥棒の足にかみついたことが分かれば正答。「飛び起きて」は省略可。「ナイフでさされた」は泥棒の勘違いをそのまま答えています。

問1

正解：イ

本文のどこを見るか

ろうそくに火をつけようとしたことと、傍線①の炭だと思ったこと。

考え方

火をつけるという目的と、猫の目を炭だと思い込んだことを結びつけます。

誤答の理由

ア：食べ物の場所を教えようとしていません。ウ：猫の目だとは気づいていません。エ：仲間への合図ではありません。

使い方・出典・教材制作

ブレーメンの音楽隊／小学3・4年生向け

印刷と使い方

全17ページ。児童用は1～12ページ、解答・解説は13～16ページ、使い方・出典は17ページです。A4横向き・片面・実際のサイズ（100%）で印刷します。各回の本文を読む順に上へ並べ、問題をその下に置きます。

取り組み方

全4回です。各回の本文を最後まで読んでから、3問に取り組みます。第2～4回には教材用のあらすじを添えています。本文を手元に置き、前回の記憶だけに頼らずに解きます。

問題と採点

各回到4択・短答・記述を各1問、全12問を掲載しています。短答は短い言葉で、記述は出来事や理由を文で答えます。字数制限はありません。解答例と表現が違ってても、必要な内容が読み取れていれば認めます。

読み方のポイント

旅の目的、動物たちの心配、行動の理由や順序を読みます。後半では、実際に起きたことと泥棒の勘違いを対応させます。四ひき全員が年老いていたとは決めつけず、最後は町ではなく泥棒たちの家に住みついたことを確かめます。

作者・作品

作品：『ブレーメンの音楽隊』

原作者：グリム兄弟

Jacob Grimm／Wilhelm Grimm

掲載英語題：THE TRAVELLING MUSICIANS

出典情報

Grimms' Fairy Tales

Project Gutenberg 電子書籍番号2591

<https://www.gutenberg.org/ebooks/2591>

ご提供の英文と上記掲載作品を底本としています。書誌ページに英訳者の記載がないため、英訳者名は記載していません。

翻訳・加工情報

小学3・4年生向けに日本語訳し、語句・文の組み立て・段落を整え、ふりがな・注釈・傍線・設問を加えました。「これまでのお話」は教材用の追加です。題名は親しまれている日本語題を用い、英文の行き先「大きな町」は本文でもそのまま訳しています。おんどの呼び名は「おんどり」に統一しました。

教材制作

家スタ！／学習舎シオン

新しい教材のご案内

新しいおはなし読解プリントは、【家スタ！】公式アカウントで先行配信しています